起業のカタチ

短期間で、目まぐるしく変わる農業情勢
このような中で、創意工夫をし、新しい技術を取り入れ、
地域資源を生かし、営農する経営者が増えている
市の各種支援事業などを活用し、
起業、就農した3人を紹介する

なりだファーム代表
渡邊幸恵さん（48）米山町瀬ヶ崎
わたなべ・さちえ

おいしさ、品質にこだわる

「仕事にしたくはないと思っていた農業。自分で、やりたいと思える日が来るとは思いませんでした」と笑う渡邊さん。渡邊さんは、15年に家族と株式会社を立ち上げ、赤シソやゴボウなどを加工販売している。

高校卒業後、米山町農協（現ＪＡみやぎ登米）へ就職したが「家業も仕事も農業であることが嫌になって」と94年に退職。退職後は10年ほど海外や県外で仕事をし、03年登米市に戻った。戻って気付いたのは、地元農産物のおいしさ。登米市の食の豊かさをあらためて実感した。

11年、東日本大震災発生。被害で混乱する様子を見て、古里、食、農業の大切さを痛感した。「被害の遭った古里を守り、何よりも安心、安全でおいしい食をみんなに届けたい」と翌12年に実家で就農。就農後は、各種支援事業で経営を学び、収益を上げるために生産、加工、販売までの6次産業化を決意する。起業時は、ふるさと創生ベンチャー起業支援事業を活用した。

渡邊さんが生産、販売するのは、家族や知人が口にして「うまい」と認めたものだけを商品化している。「体に良いだけでは、長く買ってもらえません。『おいしさ』『品質』の両面に徹底的にこだわっていきます」

香ごぼう茶、玄米カフェや赤しそジュースキット「SHISON」、などを加工販売。全て、渡邊さんの田畑から収穫されたものを加工している。赤しそは、仙台ロイヤルパークホテルのレストランでも使用している。今後は漬物の商品化を予定している。
【ホームページURL】
http://www.narida.biz/

石ノ森農場は、水稲と転作の土地利用型農業、トルコギキョウやストックの花き、キュウリとタマネギの栽培に取り組んでいる。農場の目標は「定時」「定量」「定品」「定価格」の「4定」。
【ホームページURL】
http://www.ishinomori-farm.co.jp/

目標は「石森発世界行き」

「敷かれたレールに乗るのが嫌でした」と胸の内を明かす。宮城農業大学校卒業と同時に、国際農業者交流協会の海外農業研修に参加。施設園芸の先進国、オランダへ1年間の農業留学をし、衝撃を受けた。トマト栽培ハウスの中は、高品質生産とコスト減を目的に、肥培管理は全て機械化。作業も全てマニュアル化されていた。「近代化された農業に、無限の可能性を感じました。オランダの農家は、農業者であり経営者。自分のやりたいことが見つかりました」。

帰国後2年間は、父の下でノウハウを継承。「良い作物を作るノウハウがなければ、機械化しても意味はありません。この2年間で、父の存在の大きさに気付きました」と振り返る。

07年、育苗ハウスを生かして、トルコギキョウの栽培を始めた。15年、ビジネスチャンス支援事業を活用し「株式会社石ノ森農場」を設立。設立後は、キュウリとタマネギも栽培し、規模を拡大している。今後は、花束の加工や販売など、6次産業化に取り組んでいく。

「農業は『アグリビジネス起業家育成塾』などから、頭を使えばさらに伸びる産業だと学びました。今はまだまだですが、将来は海外に事業を展開したいと考えています」

石ノ森農場代表
山内健太郎さん（35）中田町新町
やまうち・けんたろう

木漏れ日農園村長
鎌田大地さん（24）南方町峯
かまだ・だいち

ライフスタイルとしての農業

「私の就農は、ほかの皆さんとは少し意味合いが違うかもしれません」とほほ笑む。15年に大学を卒業し、母の実家、東和町米川の休耕地を自力で復活させ就農した。

高校時代、祖父母から「もうからないし、つらいから農業はするな」と言われた。そこから「利益を得る方法は」「楽しく農業をする方法は」を調べていくうちに「農業」で生活する確信が持てた。大学では、理想とする農業スタイルを学べる学部や研究室を選んだ。初年度は、60アールの畑に、レタス、ハクサイやニンジンなど80品種を作付け。そのうち12品種は市の伝統野菜。稲作中心の登米の農業に新しい風を起こした。

「ほかと同じでは、収益を確保できません。不利な条件を逆手に、少量、多品目に有機栽培という付加価値で勝負です」。販路は、仙台市内の飲食店を中心に多岐にわたり、収支は当初予定の範囲で推移している。「母の実家があったお陰で、初期投資を抑えられました。機械や施設導入に市補助金を使えたことも大きいです」と話す。

「これからは、現在の園芸と山に牛を放牧しての畜産、そして林業との複合経営を予定しています。生きていくスタイルとして農業を選びました。今、とても幸せです」

現在、90アールまで規模を拡大した畑は、出荷、自家用以外に、飲食店向けに年間契約の貸し農園を設けている。

起業・創業経費の一部を支援します ふるさと創生 ベンチャー起業支援事業（追加公募）

地域での新たなビジネスや雇用創出のため、起業・創業時に必要な設備・運転資金の一部を、補助金と融資により支援します。

【対象者】市内への新規創業者または第２創業者

【対象事業】▶農林漁業、商業、工業分野で、地域資源を生かした新たなビジネスにより、需要および雇用を創出する事業▶既存企業の第２創業

【支援内容】①＋②により支援

①補助金▶対象経費＝支援対象期間（交付決定後～平成30年３月15日）の従業員の人件費、店舗借入費、設備費など▶補助率＝５分の４（上限２４０万円）

②融資▶限度額＝１千万円▶利率＝１％▶信用保証料＝市が全額負担

【対象の選考方法】▶事業計画を提出いただき、審査会で選考。地域資源の活用、地域経済への波及効果、雇用創出効果の高いものを採択します（２件程度）

【申請期限】９月29日（金）

【申請方法】市ホームページから申請書類をダウンロードし、産業経済部ブランド戦略室まで提出してください

【ＵＲＬ】
http://www.city.tome.miyagi.jp/oshirase/brand/sougyousiennzigyou.html

【問い合わせ】
産業経済部ブランド戦略室（ブランド戦略係）
☎ 0220(34)2549